

2021年3月25日

令和2年度 学位記授与式 学長告辞

九州工業大学長 尾家祐二

本日、ここに令和2年度の学位記授与式を挙行できますことは、本学にとりまして大きな喜びであります。栄えある門出を迎えられました皆さんに、まずもってお祝い申し上げます。また、この日まで卒業生・修了生を物心両面から支えてこられました保護者、御家族の皆様のお喜びはひとしおと拝察し、衷心よりお祝い申し上げます。

この度の新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大によって、この1年余りの間に、1億人以上の人たちが感染しました。これまで、皆さんは感染防止に配慮し多くの制約の中、学習や研究活動を行い、様々な苦勞をされたことと思います。そのような中において、本日の学位記授与式を迎えられました皆さんに、深く敬意を表します。

今回の感染症拡大の影響は甚大で、2020年度通商白書では、「世界は戦後最悪の経済危機に直面」したことが伝えられています。世界経済フォーラムの2020年7月のレポートによると、全世界の70%の国々において、様々なレベルの在宅での活動が要請され、インターネット利用は70%上昇し、ネットワークを介した連携ツールの利用は6倍以上伸びました。また、全世界の労働の10%がリモートで行われ、初等中等教育機関の100万人の生徒、大学等高等教育機関の200万人の学生が遠隔で教育を受けることが出来た、と報告されています。ITによってある程度の活動を継続できたことは幸いでした。しかし、一方では、仕事や学習において、デジタル技術を十分に利用できない環境にある人も多く、デジタル格差も浮き彫りになりました。

私たちの働き方、学び方、生活様式も大きな影響を受けました。そして、それぞれの立場の人たちが、様々な経験を通して、考え方や価値観に関しても多大な影響を受けたと思います。私たちの考え方、価値観が変化したことにより、感染症拡大が終息した後においても、様々な社会活動、経済活動が、以前とは異なっていく可能性が十分あります。しかし、意志を持ち、判断し、選択し、実行するのは、ウイルスではなく、私たち人間であることを意識すべきだと考えます。歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリが指摘しているように、「この感染症が最終的にどんなインパクトを与えるかは、あらかじめ決まっているわけではなく、私たち次第」であり、私たちの選択と実行にかかっています。

このような中、日本では、2021 年度から始まる 5 年間に国が進めるべき「科学技術・イノベーション基本計画」が検討されています。そこでは、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、科学技術の価値と役割を見直し、一人ひとりの価値、地球規模の価値を問いつつ、社会的価値を生み出す課題解決を行うことの重要性が指摘されています。

科学技術への期待が一層高まる中、皆さんは、これから様々な課題解決に関わっていくことでしょう。その際に、私たちの社会を支えている制度、文化、技術等は、一つの国や地域、文化だけで生み出されたものではなく、多くの国、地域の様々な活動が影響し合い、貢献し合って出来上がっていることを理解して欲しいと思います。さらに、これからは、一つの国や地域で解決できないことが数多く生じ、そのような課題を解決するためには、多様な考え方、多様な価値観を持った人たちによる多様な知恵を集める努力が必要になります。皆さんには、孤立や分断でなく、多様な人々から学び、連携されることを切に願います。

最後になりますが、皆さんが、九州工業大学における多くの良き出会いを財産として、この変化に富んだ時代の中で、生活を楽しみ、多くを感じ、考え、学び続け、活躍されますことを祈念し、皆さんの栄えある門出を心から祝福申し上げ、告辞と致します。本日は、誠におめでとうございます。

(参考)

1. 2020 年度通商白書

<https://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2020/index.html>

2. 世界経済フォーラム

World Economic Forum, "Accelerating Digital Inclusion in the New Normal," July, 2020.

http://www3.weforum.org/docs/WEF_Accelerating_Digital_Inclusion_in_the_New_Normal_Report_2020.pdf

3. ユヴァル・ノア・ハラリ著「緊急提言 パンデミック」河出書房新社 (2020.10)

4. 科学技術・イノベーション基本計画について (答申素案)

https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/6ki_tosinsoan.pdf